



2018年3月期 第1四半期
決算補足資料

証券コード：6908

2017年8月2日

イリソ電子工業株式会社

四半期単独での売上が過去最高。イリソ初100億円超え

- ・ 売上面では前年同期比12.5%増で、四半期で初めて100億円を突破。
車載市場を中心に物量が堅調に増加
- ・ 利益面では、売上の増加と原価低減活動により、
営業利益率は前期比2.9ポイント増の18.0%となった

【市場別】

- ・ 車載市場：安全系(カメラ・レーダー)向けや三次元可動BtoBコネクタ “Z-Move™”
を含むパワートレイン系が牽引。
カーエレクトロニクス分野は過去最高売上を2四半期連続で更新
- ・ インダストリアル市場：FA機器の需要増により、
PLC、サーボアンプ、インバーター向け等で増加

【地域別】

- ・ 国内：車載市場、インダストリアル市場を中心に増収
- ・ アメリカ：車載市場で安全系及びAVN分野が好調
- ・ 中華・韓国圏：カーエレクトロニクス分野、インダストリアル市場を中心に増収
- ・ 欧州：車載市場で安全系を中心に好調で増収

【トピックス】

- ・ 前期に引き続き、国内外のお客様より「ベストサプライヤー賞」等を受賞。
Continental様、アルパイン様、豊田自動織機様からは2年連続で表彰

2. 2018年3月期第1四半期連結業績(前年同期比)



単位：百万円

	17.3期 第1四半期	18.3期 第1四半期	前年同期比
売上高	9,086	10,219	1,132 112.5%
営業利益	1,368	1,836	468 134.2%
経常利益	1,169	1,785	616 152.7%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	852	1,396	543 163.8%
EPS	73.77円	117.94円	
為替レート 期中平均	ドル 109.07円 ユーロ 122.47円	111.61円 123.14円	2.54円 0.67円

3. 売上高詳細(市場別)

単位：百万円

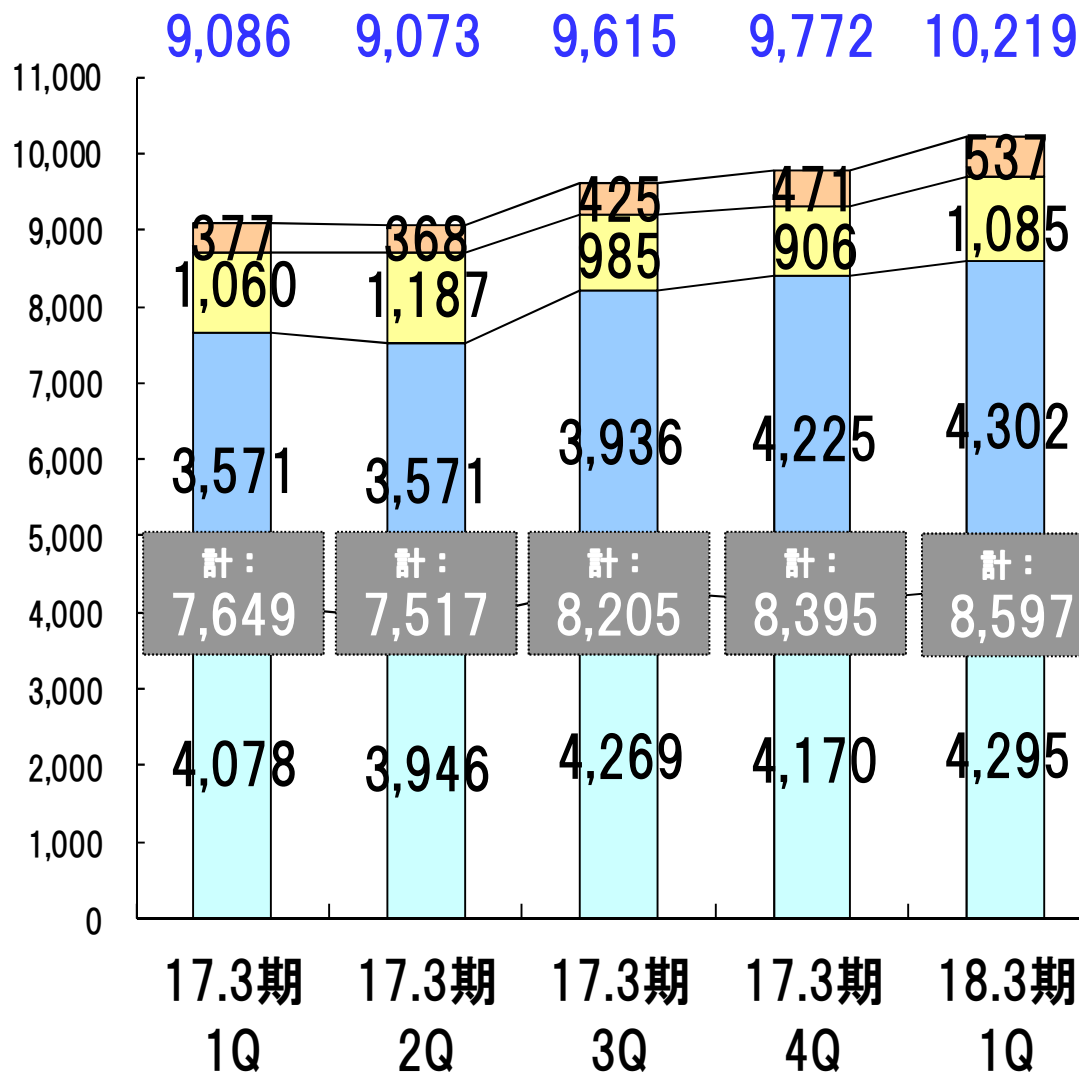
		18.3期 第1四半期	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		8,597	112.4%	84.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ADASや電装化の進展を背景にエレクトロニクス分野が増加。AVN分野を上回る売上へ ・ ADAS関連で安全系(車載カメラ、レーダー)が好調を維持し、前年同期比約150%
区	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	4,295	105.3%	42.0%	
分	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	4,302	120.5%	42.1%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		1,085	102.4%	10.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリンター向けの増加 ・ ゲーム機向けの増加
インダストリアル (産業機器等)		537	142.5%	5.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ PLC、サーボアンプ向け等で増加
合計		10,219	112.5%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外比率78.2%

注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと

4. 市場別売上高(四半期推移)



単位：百万円



◆ 対17.3期1Q

工業
142.5%

消費者
102.4%

車載 (エレ)
120.5%

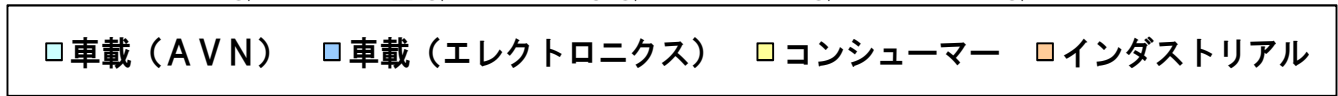
車載 (全体)
112.4%

車載 (AVN)
105.3%

・ PLC向け等で増加
・ 初めて5億円台突破

・ OA機器、ゲーム向け等で一部回復

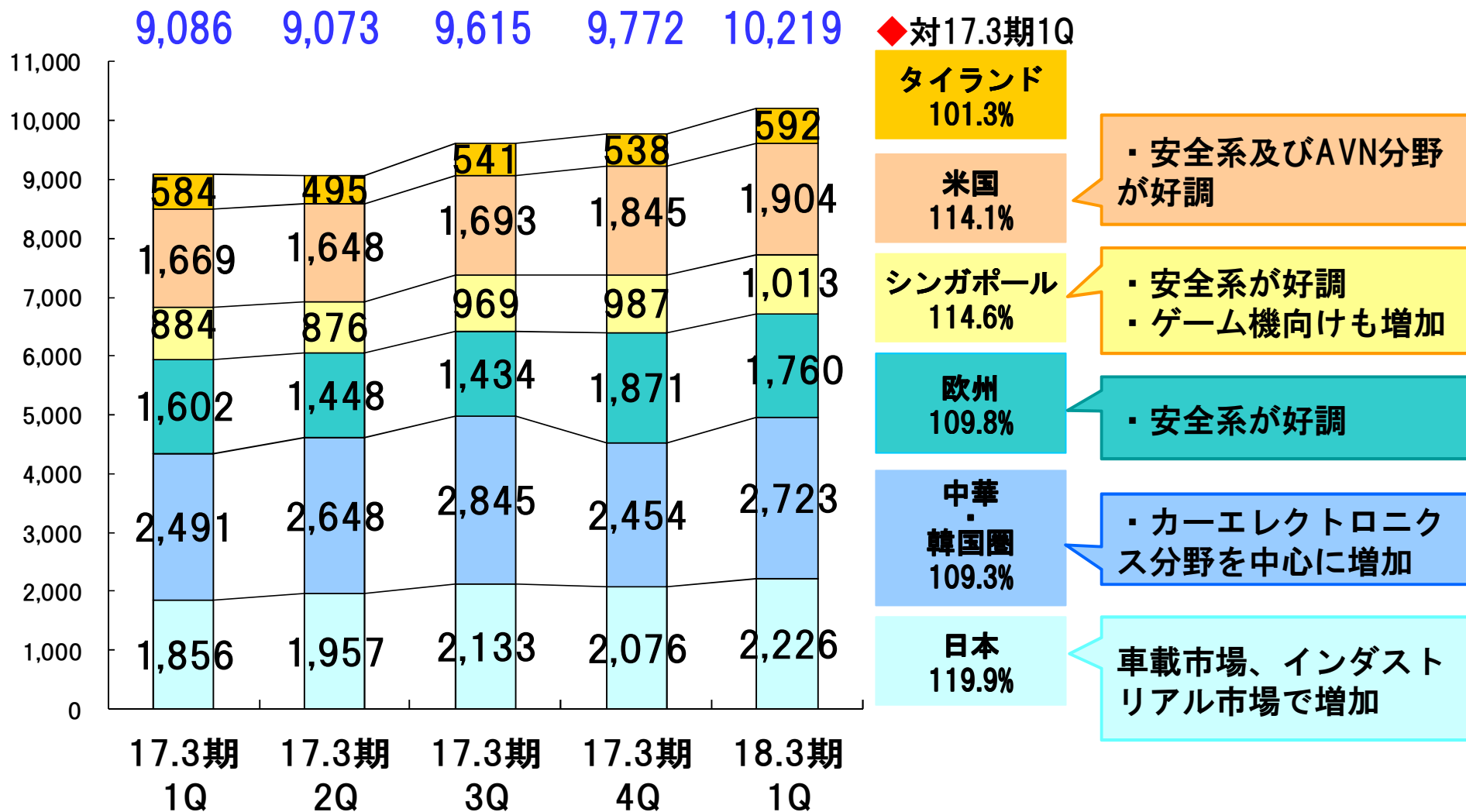
・ カーエレクトロニクス分野は安全系が牽引し、過去最高売上。パワートレイン関係も増加
・ Q単独でカーエレクトロニクス分野の売上が2Q連続でAVN分野の売上を越えた



5. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円

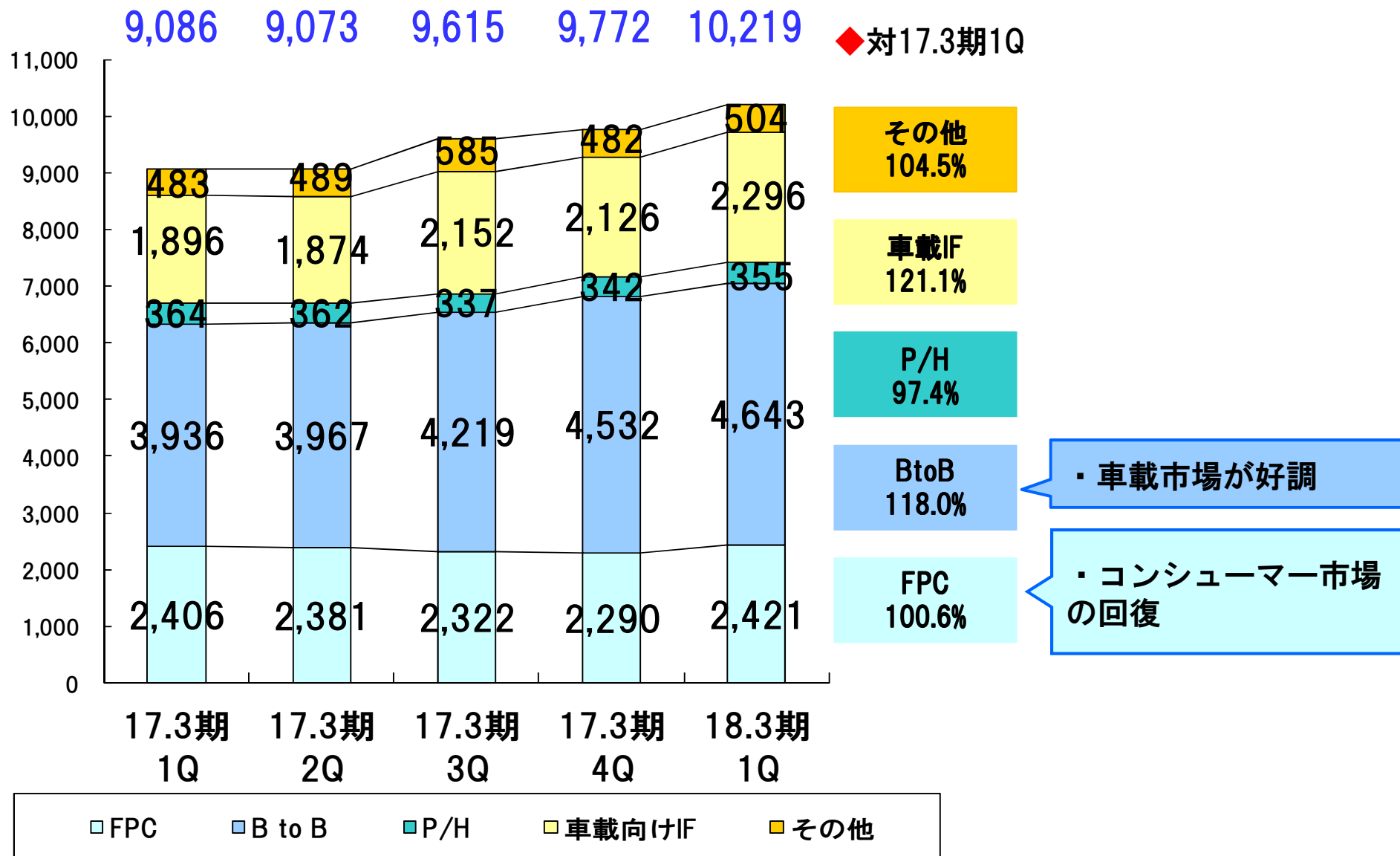


□ 日本 □ 中華・韓国圏 □ 欧州 □ シンガポール □ 米国 □ タイランド

6. 製品別売上高(四半期推移)



単位：百万円



7. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	17.3期 第1四半期		18.3期 第1四半期		前年同期比	
売上高	9,086	100.0%	10,219	100.0%	1,132	112.5%
売上原価	5,928	65.2%	6,409	62.7%	481	108.1%
売上総利益	3,158	34.8%	3,809	37.3%	651	120.6%
販売管理費	1,789	19.7%	1,973	19.3%	183	110.3%
営業利益	1,368	15.1%	1,836	18.0%	468	134.2%
営業外収益	11	0.1%	13	0.1%	1	118.2%
営業外費用	210	2.3%	64	0.6%	△146	30.5%
経常利益	1,169	12.9%	1,785	17.5%	616	152.7%
特別損益	△2	△0.0%	△18	△0.2%	△16	-
税前利益	1,166	12.8%	1,766	17.3%	599	151.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	852	9.4%	1,396	13.7%	543	163.8%
E P S	73.77		117.94		-	
為替レート (ドル/ユーロ)	109.07円/		111.61円/		2.54円/	
	122.47円		123.14円		0.67円	



8. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

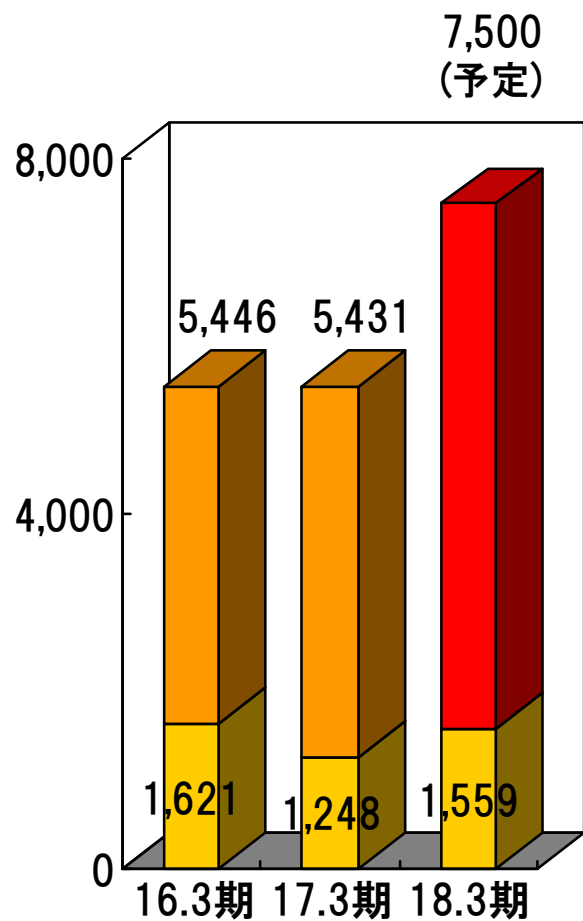
	17.3期	18.3期 第1四半期	前期末比	増減要因
流動資産	31,828 60.8%	31,697 59.9%	△131	現金及び預金△532 受取手形及び売掛金305
固定資産	20,534 39.2%	21,250 40.1%	716	有形固定資産709
資産合計	52,363 100.0%	52,947 100.0%	584	
流動負債	7,000 13.4%	6,636 12.5%	△364	未払法人税等△531
固定負債	669 1.3%	703 1.3%	33	
負債合計	7,670 14.6%	7,339 13.9%	△331	
株主資本	42,737 81.6%	43,430 82.0%	693	利益剰余金693
その他の 包括利益累計額	1,715 3.3%	1,921 3.6%	206	為替換算調整勘定208
非支配株主持分	239 0.5%	255 0.5%	16	
純資産合計	44,692 85.4%	45,607 86.1%	915	1株純資産 3,831.40円 (前期末 3,755.44円)
負債・純資産 合計	52,363 100.0%	52,947 100.0%	584	



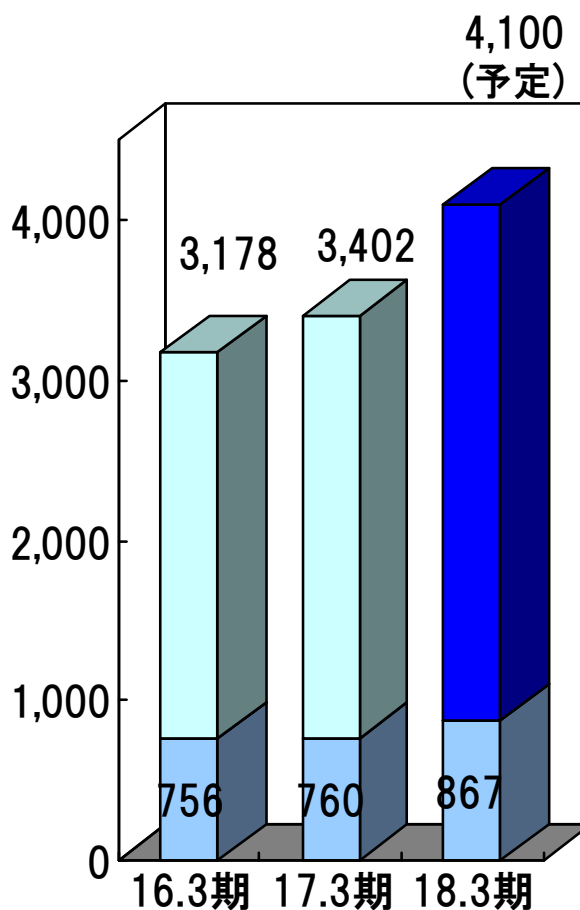
9. 設備投資・減価償却・研究開発



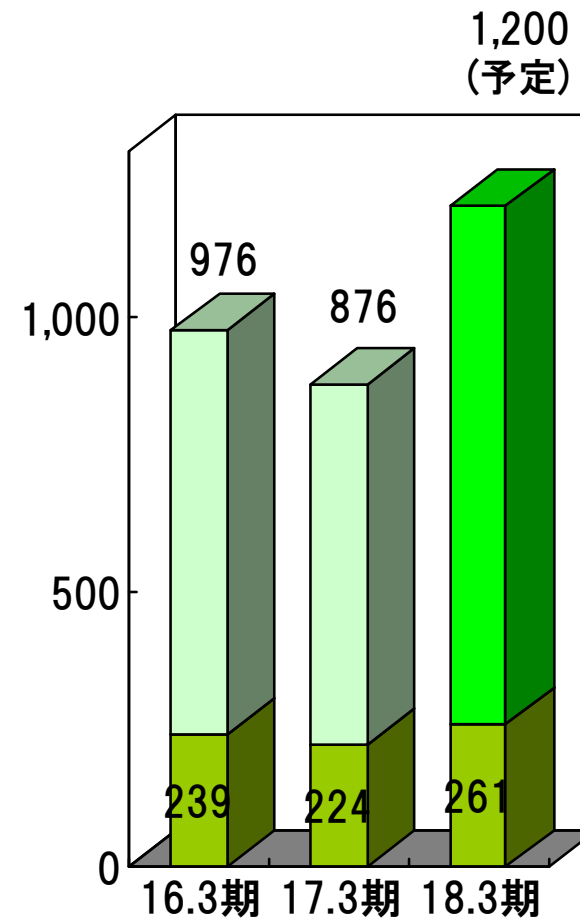
単位：百万円



設備投資



減価償却



研究開発

注：各グラフの数値は、下段に第1四半期累計の実績、上位に通期での実績(18.3期は予定)を記載

10. 2018年3月期 計画(前期比)



単位：百万円

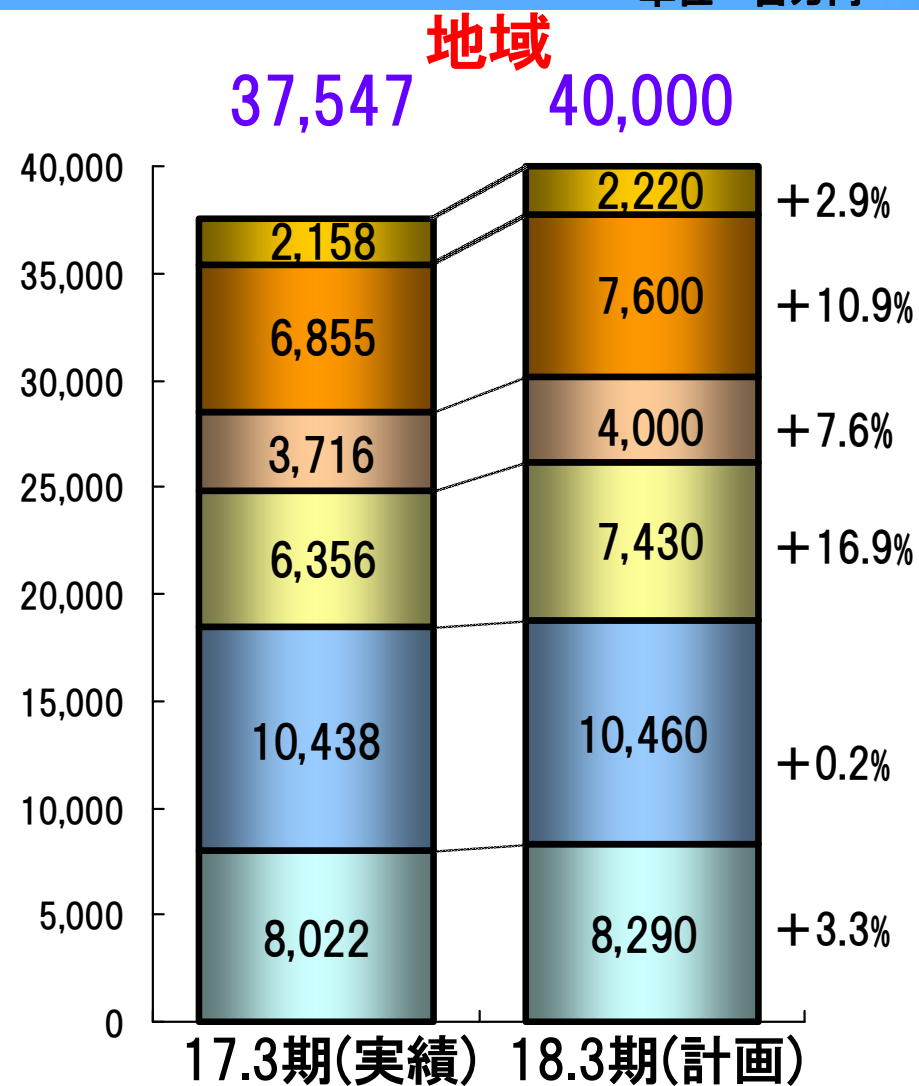
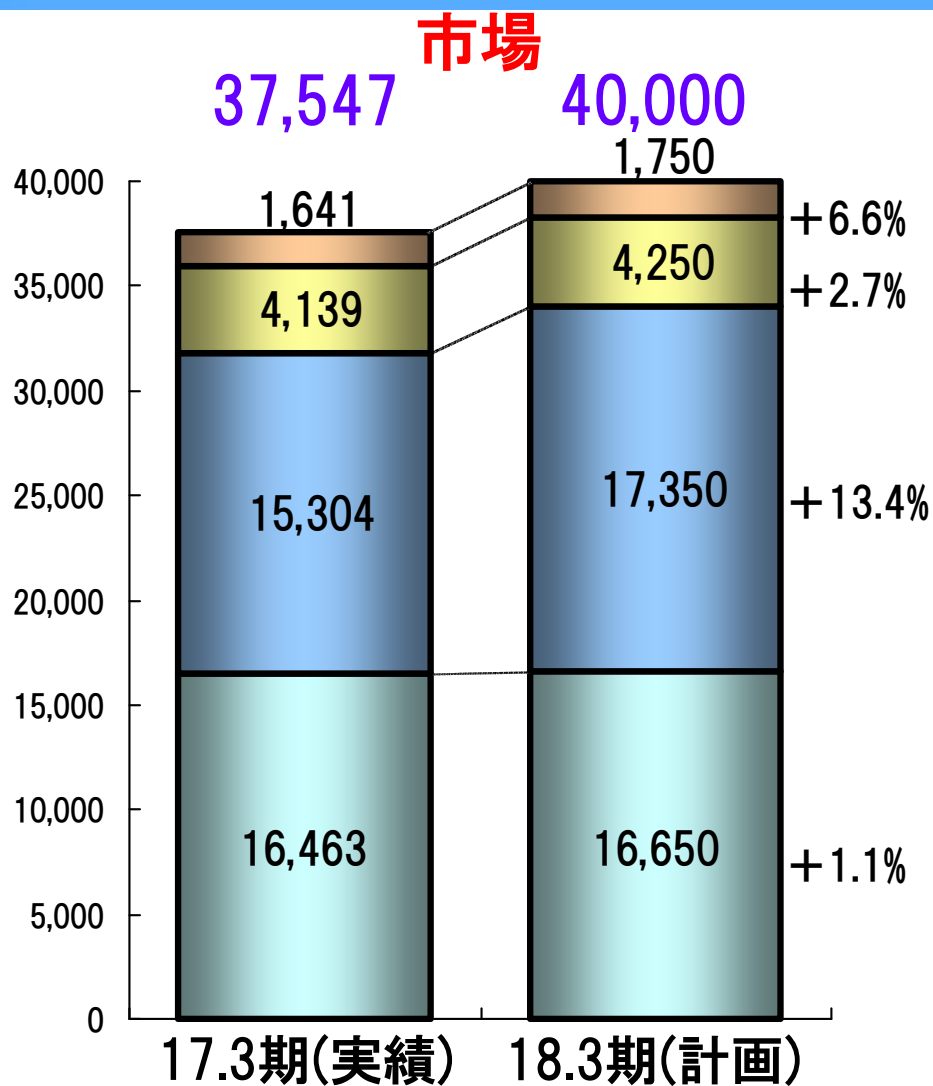
	17.3期 実績	(上期) (下期)	18.3期 計画	(上期) (下期)	通期 前期比
売上高	37,547	(18,159) (19,388)	40,000	(19,400) (20,600)	2,453 106.5%
営業利益	6,661 (17.7%)	(2,845) (3,816)	7,200 (18.0%)	(3,200) (4,000)	539 108.1%
経常利益	6,750 (18.0%)	(2,638) (4,112)	7,200 (18.0%)	(3,200) (4,000)	450 106.7%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,875 (13.0%)	(1,913) (2,962)	5,200 (13.0%)	(2,200) (3,000)	325 106.7%
EPS	414.32円	—	219.65円		
為替	ドル109.03円 ユーロ119.37円	—	ドル110.00円 ユーロ120.00円		

※効力発生日を2017年9月1日とする株式分割（普通株式1株につき2株の割合）を実施することに伴い、EPSを算定しております。

11. 2018年3月期 売上計画内訳(市場、地域)



単位：百万円



■ 車載 (AVN) ■ 車載 (エレクトロニクス) ■ コンシューマー ■ インダストリアル

■ 日本 ■ 中華・韓国圏 ■ 欧州 ■ シンガポール ■ 米国 ■ タイランド



項目	設定条件
	USD 110.00円 / \$
為替	EUR 120.00円 / €
	元 15.80円 / 元
設備投資	7,500百万円
減価償却	4,100百万円
研究開発費	1,200百万円

1:2の割合で株式分割を実施します

- 株式分割の目的
投資単位当たりの金額を引き下げることにより、
投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、
当社株式の流動性の向上と投資家層の更なる拡大を図ること
- 株式分割の概要
 - ① 分割の方法
2017年8月31日を基準日として普通株式を、
1株につき2株の割合をもって分割いたします
 - ② 分割の日程
 - 基準日公告日 : 2017年8月10日
 - 基準日 : 2017年8月31日
 - 効力発生日 : 2017年9月 1日

会 社 名	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	1966年（昭和41年）12月
社 員 数	3,489名（平成29年3月31日現在）
資 本 金	5,640百万円（平成29年3月31日現在）
本 社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	
国 内	本社、岩手県、茨城県、愛知県、大阪府
海 外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州）、マレーシア、台湾、 インド
研 究 開 発	本社（イリソテクノロジーパーク）、 川崎（生産技術センター）、上海R&Dセンター
工 場	茨城県、中国（上海）、フィリピン、ベトナム（ハイズン）

コネクタの種類

基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット／アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

P/H

ピンヘッダーの略。線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。